

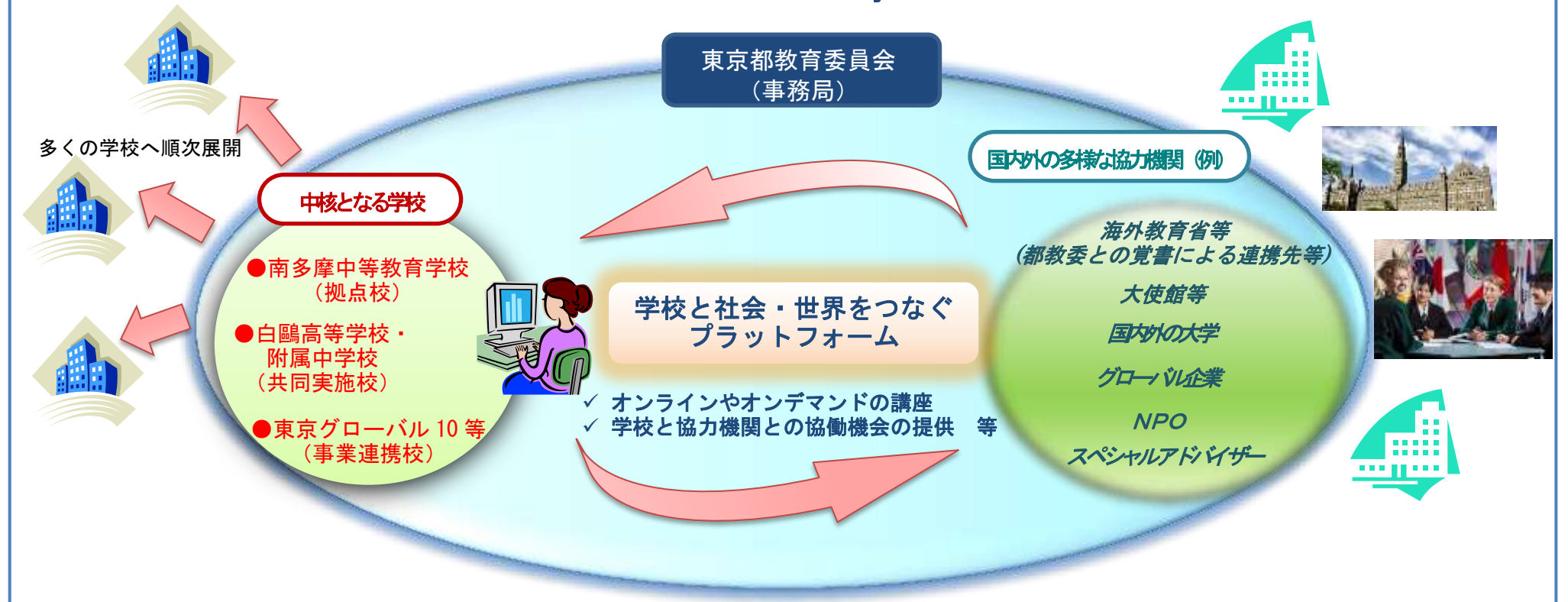
高度で創造的な探究学習を社会・世界と連携して提供する『Diverse Link Tokyo Edu』の構築

I 新たな時代に対応できるグローバル人材を育成するための現状と課題

- 東京都英語村 TOKYO GLOBAL GATEWAY や TEEP（東京イングリッシュ・エンパワメント・プロジェクト）などで実践的な英語の学習機会を提供しているが、発展的な学びを通して、より高い英語力を伸長する必要
- 国際感覚や世界的視野をもって行動できる力を育成することが必要
- Society5.0 を見据え、深い思考と協働力、創造性を培う高度な学びを提供することが必要
- 東京に集積する多様な資源を活用し、体験的な探究学習を開発することが必要

II 都独自の「学びのプラットフォーム」の構築

<Diverse Link Tokyo Edu>



※文科省 2019 年度新規事業『WWL (ワールド・ワイド・ラーニング) コンソーシアム構築支援事業』に採択
事業期間 2019~2021 年度 (3年間)

Ⅲ 取組の方向性

- 実社会や世界と校外でつながり協働する、高度で体験的な学習機会の提供
- 「探究学習」のプロセス（課題設定、情報収集、情報分析、まとめ・発表）を学校教育に体系的に組み込み
- 英語をより高度な学びのツールとして積極的に活用

1) 先進的な教育手法の活用

- CLIL（内容言語統合型学習）
 - ・英語で様々な教科を学ぶ

➢ STE(A)M^{*}教育

※Science, Technology, Engineering, Art, and Mathematics

- ・論理的な思考力



2) 実社会や世界の知見に触れる機会

- 都独自の文理融合の「探究学習」カリキュラムを、協力機関と共同開発
- グローバル企業の経営者層、アントレプレナー、国内外のトップ大学教員等を学校に招聘
- 研究者や企業による論文やプレゼン指導
- 企業や研究室への訪問
- オンライン教材



3) より主体的・対話的な学び方の導入

- 海外の姉妹校や国内の地方の学校との協働プロジェクト
- オンラインで国内外の学校と討議
- 企業等から提示された課題等に対し、高校生がリサーチ及び提案



4) 多様な学びの場

- 高校生国際会議の開催

都市のダイナミズム、ネットワーク力を生かした学びの内容・方法を展開し、都立校の魅力向上にも寄与